

# 聖霊降臨節第20主日

<p><b>朝第2礼拝</b> 10:30~12:00</p> <p>〈神の招き〉</p> <p>前 奏 我いずこに逃がれゆかん クレプス</p> <p>招きの詞 詩編121:1~8</p> <p>交読詩編 65:1~5</p> <p>讃美歌 17</p> <p>〈神の言葉〉</p> <p>聖 書 コヘレトの言葉11:1~6 (旧約 新共同訳 1032頁) マルコによる福音書4:1~9 (新約 新共同訳 65頁)</p> <p>祈 禱 転 会 式 讃 美 歌 566</p> <p>説 教 「たとえ小さな種でも」 小友 聡 牧師</p> <p>祈 禱 黙 想 讃 美 歌 412</p> <p>〈神への応答〉</p> <p>使 徒 信 条 献 金 主 の 祈 り 宣 教 報 告 頌 栄 29</p> <p>派遣と祝福</p> <p>後 奏 大いなる主 しげき恵み ヴァルター</p>	<p><b>朝第1礼拝</b> 9:00~10:00</p> <p>〈神の招き〉</p> <p>前 奏 主なる神を我らはたたえる ヴァルター</p> <p>招きの詞 詩編121:1~8</p> <p>交読詩編 65:1~5</p> <p>讃美歌 10</p> <p>〈神の言葉〉</p> <p>聖 書 イザヤ書52:7~10 (旧約 新共同訳 1133頁) ローマの信徒への手紙10:14~21 (新約 新共同訳 283頁)</p> <p>祈 禱 讃 美 歌 53 説 教 「良い知らせを伝える者」 祈 禱 黙 想 讃 美 歌 405</p> <p>〈神への応答〉</p> <p>使 徒 信 条 献 金 主 の 祈 り 頌 栄 29</p> <p>派遣と祝福</p> <p>後 奏 主なる神を我らはたたえる クレプス</p> <p>宣 教 報 告</p>
<p><b>夕 礼 拝</b> 18:00~19:00</p> <p>〈神の招き〉</p> <p>前 奏 ただ神のみ心にまかせる者は クレプス</p> <p>招きの詞 詩編121:1~8</p> <p>交読詩編 65:1~5</p> <p>讃美歌 217</p> <p>〈神の言葉〉</p> <p>聖 書 ダニエル書12:1~4 (旧約 新共同訳 1382頁) コリントの信徒への手紙二5:1~10 (新約 新共同訳 323頁)</p> <p>祈 禱 讃 美 歌 390 説 教 「体を住みかとして」 祈 禱 黙 想 讃 美 歌 528</p> <p>〈神への応答〉</p> <p>使 徒 信 条 献 金 主 の 祈 り 宣 教 報 告 頌 栄 29</p> <p>派遣と祝福</p> <p>後 奏 主よ、我は汝により頼む パッヘルベル</p>	
<p><b>次週の礼拝(10月6日)世界聖餐日・聖餐式</b></p> <p>①9:00、②10:30</p> <p>説教「子どものように」熊江秀一牧師 イザヤ書43:1~7、マルコによる福音書 10:13~16 交読詩編73:21~28 讃美歌11、52(奉唱409)、 371、79、29</p>	
<p>夕 18:00</p> <p>説教「生きるにも死ぬにも」甲賀正彦伝道師 ヨブ記42:1~6、フィリピの信徒への手紙 1:12~30 交読詩編73:21~28 讃美歌218、529、518、79、29</p>	

\*礼拝中、起立がご無理な方は、着席のままどうぞ。\*は祈禱当番の方。\*①は朝第1礼拝、②は朝第2礼拝、☐はサテライト、夕は夕礼拝。

**■今週の祈禱課題■** 独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。

1. キリストの体なる教会が豊かに形成される為に 2. 東日本大震災と能登半島地震の被災者の為に  
3. 教会全体修養会の恵みに感謝して 4. 10月の宣教の為に 5. 世界聖餐日と世界宣教の日の為に  
6. イスラエルとパレスチナ、ウクライナ、世界の平和の為に 7. 病気の兄弟の為に

**\*関東教区お祈りカレンダー** 水戸中央教会 水戸自由が丘教会 土浦教会

◇先週の説教より 「結婚の意味」マルコによる福音書10:1~12、創世紀2:18~25 熊江秀一牧師

主イエスのエルサレムへの旅が始まる。それは十字架に向かう旅である。この旅の中、主は受難予告を挟んで四つの教えを語る。まず「結婚と離縁」である。

ファリサイ派の人々は主に離縁について尋ねた。主を試すためである。

ユダヤ社会では夫は妻に「離縁状を書いて」離縁することができた。しかし夫の身勝手な解釈で離縁となることも多かった。それは御言葉を自分勝手に利用する罪の姿である。その姿は今も問われる。

この問答があったのはヘロデ・アンティパス王の宮殿の近くである。ヘロデ王は自分の兄弟の妻を奪って結婚し、それを非難したバプテスマのヨハネを殺した。ここにファリサイ派の人々の狙いがあった。主が離縁を否定すれば、ヘロデへの非難として主を訴えることができる。彼らは御言葉を利用して、主を陥れようとした。

主はそれをご存じであった。その上で「かたくなな」私たちに結婚の意味を語る。

主は創造の恵みに目を向けさせる。神は天地創造の最後に人を造られた。しかも神は人をご自分のかたちに創造し、男と女に造られた。聖書協会共同訳聖書ではこれが一文で訳された。神のかたちに造られた私たちは、その神と向き合う姿を男女の中で映し出すのである。男女は互いに助け合って神の栄光を現す。それが男と女を創造した神の御心である。そして神の前に「二人は一体となり」家庭を築く。これが結婚の秘儀である。

人類が創造されて以来のこの神の恵みのご意志を忘れてはならない。仮に離婚になった時も、私たちは神の前に立つことを忘れてはならない。

かたくなな私たちは、夫婦も家族も罪にあふれ、愛乏しい。しかしその中心に主の十字架が立っている。主の十字架の赦しと執り成しの中で、神の前に共に生きる歩みを続けよう。